

令和8年度 県民からの企画提案事業
《性による差別がなく、自らの力により誰もが活躍できる社会のために》

女性相撲も考える
映画上映会

菊とギロチン

© 2018 「菊とギロチン」 合同製作舎



この事業は（公財）こうち男女共同参画社会づくり財団の委託を受けて実施します。

令和8年8月1日（土）12:30～16:00

大岐劇場 12:00 開場・観覧無料

（大岐福祉センター / 土佐清水市 大岐 2930-1）

菊とギロチン

監督：瀬々敬久

脚本：相澤虎之助・瀬々敬久

出演：木竜麻生、東出昌大、寛一郎、韓英恵、
渋谷清彦、山中崇、井浦新、大西信満、
嘉門洋子、大西礼芳、山田真歩、嶋田久作、
菅田俊、宇野祥平、嶺豪一、篠原篤、
川瀬陽太

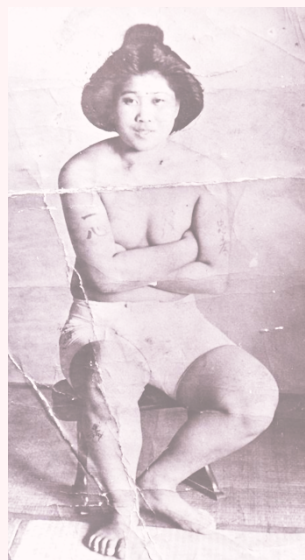
ナレーション：永瀬正敏

189分 配給：トランスフォーマー



実在した「女相撲興行」と「ギロチン社」 史実をもとにしたオリジナルストーリー

かつて実際に日本全国で興行されていた「女相撲」の一座と、実在したアナキスト・グループ「ギロチン社」の青年たち。女だという理由だけで困難な人生を生きざるを得なかった当時の女たちにとって、「強くなりたい」という願いを叶えられる唯一の場所だった女相撲の一座。様々な過去を背負った彼女たちが、少し頼りないが「社会を変えたい、弱い者も生きられる世の中にしたい」という大きな夢だけは持っている若者たちと運命的に出会う。



土佐清水市には「岩井のおかねさん」という、江戸から明治にかけて実在した力持ちの女性の伝説が残されています。相撲の名人でもあった彼女は、その力により、お殿様から認められ、夫を助け、息子の傲慢を反省させるなど、伝説は「封建的な時代における女性の活躍」を表現したエピソードになっています。この事業ではかつて土佐清水市内でも行われていた「女相撲興行」を題材に、「自らの力により差別のない世界で自由に生きる」ことをテーマとした映画【菊とギロチン】を上映します。



【会場】大岐福祉センター
(土佐清水市 大岐 2930-1)
西南交通バス停[芝]を
下車してすぐ

大岐劇場 《ちいき一日映画館》

主権：一般社団法人 清水サーバ (土佐清水市 大津795番地)

協力：樹々 吉本真理、たびさび 村松真佐美、

Woodoo Furniture 中世古真吾、satoyado くぼつ 林千博、

夢の叶崎ぱん 平林文子、工房暁月 村川愛美

問い合わせ：090-9288-1935 (担当：鈴木誠)

